



令和6年(2024年)度
山陽中学校だより(こうき)
令和7年1月7日(火)
第9号 文責 三浦 洋



「3学期始業式 式辞」

新年あけまして おめでとうございます

今年の干支(えと)は、十干の「乙(きのと)」と十二支の「巳(み)」が組み合わさった「乙巳(きのと・み)」です。「乙」は十干の2番目、陰陽五行説では「木の陰」の性質を持ち、植物が成長し広がっていくような意味合いです。柔軟性や協調性を象徴し、周囲との調和を保ちながら自身の目標に向かって進んでいく力を表しているそうです。

「巳」は十二支の6番目で、蛇を表します。蛇には一般的にネガティブなイメージもありますが、古来より豊穰や金運を司る神様として祀られることもあり、神聖な生き物として信仰されてきました。たくましい生命力があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、「復活と再生」の象徴ともされています。

「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態をも意味します。この組み合わせは、これまでの努力や準備が実を結び始める転換期を示唆しています。

さて、新年を迎えるに当たり今年の干支にふさわしい嬉しい出来事がありました。山陽中の卒業生が頑張っている姿に接し、新年早々にすこぶる感動を覚えました。

第101回箱根駅伝で、本校の卒業生が走っている姿を見ることができました。3年生や陸上部の生徒は知っていると思いますが、3年8組の藤田 琴音さんのお兄さんの藤田 大智さんが、中央大学の走者として、東京の市街地を疾走しました。

事前に箱根駅伝に出場する中央大学のメンバーに大智さんが登録された、と聞いていましたので、スポーツ新聞でその名前を見つけたときは嬉しかったです。当日の朝になって初めて、登録メンバーの中から本日出場する5名の選手が監督から発表されるそうです。

1月2日の往路の様子をテレビで観戦していましたが、1日目には出場の機会は与えられませんでした。中央大学は見事に2位で往路を終了しました。

1月3日は、「今日の復路で出場できたらよいのに」と楽しみにテレビ観戦していましたが、藤田選手の姿はなかなか画面に現れません。「2年生なので今年は上級生の出番かな」と半ば諦めていたときに、アンカーの10区を任され、出場することが分かりました。

城西大と同時に6位でタスキを受け取り、最終的に5位創価大を抜いて見事に総合5位でゴールテープを切ることができました。23.0kmを1時間9分25秒で走り抜け、区間4位の記録は素晴らしいです。仲間に祝福されながらゴールし、抱き合っただけで喜んでいる姿に思わず目頭が熱くなりました。

陸上競技の長距離部門で活躍する男子選手たちの多くが憧れる箱根駅伝に出場することは簡単なことではありません。山陽中学校の先輩が見事にその機会を得て、立派に責任を果たしている姿を見て、感動しました。そして、今日の日を迎えるまでにどれほどの「よい自業(じごう)」を積み重ねてきたのか、と想像するだけで頭が下がります。藤田選手は、まだ大学2年生なので、また来年も再来年も更なる活躍を祈念しています。

今日から3学期がスタートします。3年生は次の進路に向けて、1・2年生は、次の学年への進級に向けて、しっかりと力を蓄える1学期間にしてください。

そして、2025年の「乙巳(きのと・み)」は、皆さんにとって、在りたい自分に近づけるような成長と結実の期間となることを期待しています。どうか善業(ぜんごう)を積み重ねて、納得する自得につなげてくれることを願っています。

どうぞ本年も宜しくお願いします。以上、式辞とします。